

「地域おこし協力隊」が活動報告

新たな体験型観光の実現・推進に一役

6月8日、町の「地域おこし協力隊」の活動報告会が役場庁舎内で開かれ、町の職員ら21人が同月末で退任した隊員の活動内容や成果などの発表に耳を傾けました。「地域おこし協力隊」は、地域資源を生かしたまちづくりを推進するため、個人の持つ技術や経験を生かしてもらおうと設置しているもので、都市地域から町内に生活の拠点を移し、任期終了後も定住意欲のある人材を隊員として任命し一定期間活動してもらおう制度です。ここでは、報告会の模様などをお伝えします。



活動報告会の様子

「無人島キャンプ」で オランダ島の魅力発信

活動報告を行ったのは、中島崇^{たかし}隊員（滋賀県彦根市出身）。令和元年7月に本町1人目の隊員として着任後、町の交流人口を増やすことを目的に、これまでオランダ島を活用した「無人島キャンプ」などのキャンププログラムを開発を中心に体験型観光の推進などに取り組んできました。

「無人島キャンプ」では、自ら運営スタッフに必要なキャンプインストラクターや野外

「認定ガイド」として イベントも企画・運営

活動の指導者の資格を取得するなど、事業の推進に向けて着々と準備を進めました。受け入れの始まった令和3年度からの参加者は合計で8組39人にも及び、本町でしか味わえない魅力を発信しています。

このほか、中島隊員は、「三陸ジオパーク」や「みちのく潮風トレイル」の認定ガイドとして観光資源のPRに努めるなど、幅広く活動を展開。自



テストキャンプをする中島さん

ら企画立案したイベントは7回を数え、町外から110人の参加者呼び込むことができました。

報告会の質疑の場では、職員から数々の質問が寄せられ、中島隊員は「事業を進める上では、地域の中に溶け込み、関係性を築くことが重要ですね」と隊員としての活動を振り返っていました。

6月30日に退任した中島隊員は、引き続き町に残り、体験型観光などの事業活動に携わっていききたいと話しています。

退任する中島崇さんからひとこと



山田町に移住して初めて思ったことは、町民の皆さんが「親切で温かい」と言う点でした。正直なところ不安な気持ちも多かったのですが、仕事でお世話になる人も近所の人もいつも親身になって相談に乗ってくれて、移住当時、本当に安心しました。仕事面で、町の交流人口を増やすというミッションを達成できたかどうか不安ですが、少なくともオランダ島キャンプの実現や町外県外の人を町内に呼ぶことができたと感じています。

退任後は、引き続きオランダ島キャンプなどの体験型観光業や漁業に携わり、町民として生活していくことを決めています。これまでの経験を生かし、これからも町の魅力発信に微力ながら尽力し、町民の皆さんに恩返ししていきたいです。